

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年6月30日

妊婦へのワクチン接種で新生児の新型コロナ入院と重症化リスクが減る

【松崎雑感】

昨日のJAMA論文では、母親のワクチン接種で、胎児～新生児の新型コロナ抗体が十分上昇することを紹介しましたが、本日はそれにより実際に、新型コロナに感染した新生児の重症化リスクが減るのかどうかを示した論文を紹介します。それは、NEJMの論文です。500ペア以上で比較した結果、妊婦さんが新型コロナワクチンを2回接種すると、未接種の場合と比べて、新生児の新型コロナ重症感染率が半減するというデータです。妊婦さんあるいは妊娠予定の方で、ワクチンを受けるかどうか考え中の方に参考となるデータです。

妊婦へのワクチン接種で新生児の新型コロナ入院と重症化リスクが減る

Halasa NB, Olson SM, Staat MA, et al. **Maternal Vaccination and Risk of Hospitalization for Covid-19 among Infants** [published online ahead of print, 2022 Jun 22]. *N Engl J Med.* 2022;10.1056/NEJMoa2204399. doi:10.1056/NEJMoa2204399

背景

生後6か月以内の新生児は新型コロナ感染リスクが高いが、ワクチン接種対象から外れている。母親への新型コロナワクチン接種により経胎盤的に新型コロナ抗体が胎児に移行して、新生児の新型コロナ感染を防ぐ可能性がある。

方法

妊婦への新型コロナワクチン接種が生後6か月未満の新生児の新型コロナによる入院を減らす効果があるかどうかをテストネガティブ・症例対照研究で明らかにする。

2021年7月1日から2022年3月8日の間に、22州の30病院において新型コロナ感染児と未感染児をリクルートした。2回接種完了の有無による児のデルタ株、オミクロン株感染率の差を解析した。

結果

症例群は537名の新生児（平均月齢2か月、デルタ株流行時181名、オミクロン株流行時356名）、対照群は512名。症例群新生児の16%と対照群新生児の29%では、母親がmRNAワクチン2回接種を完了していた。

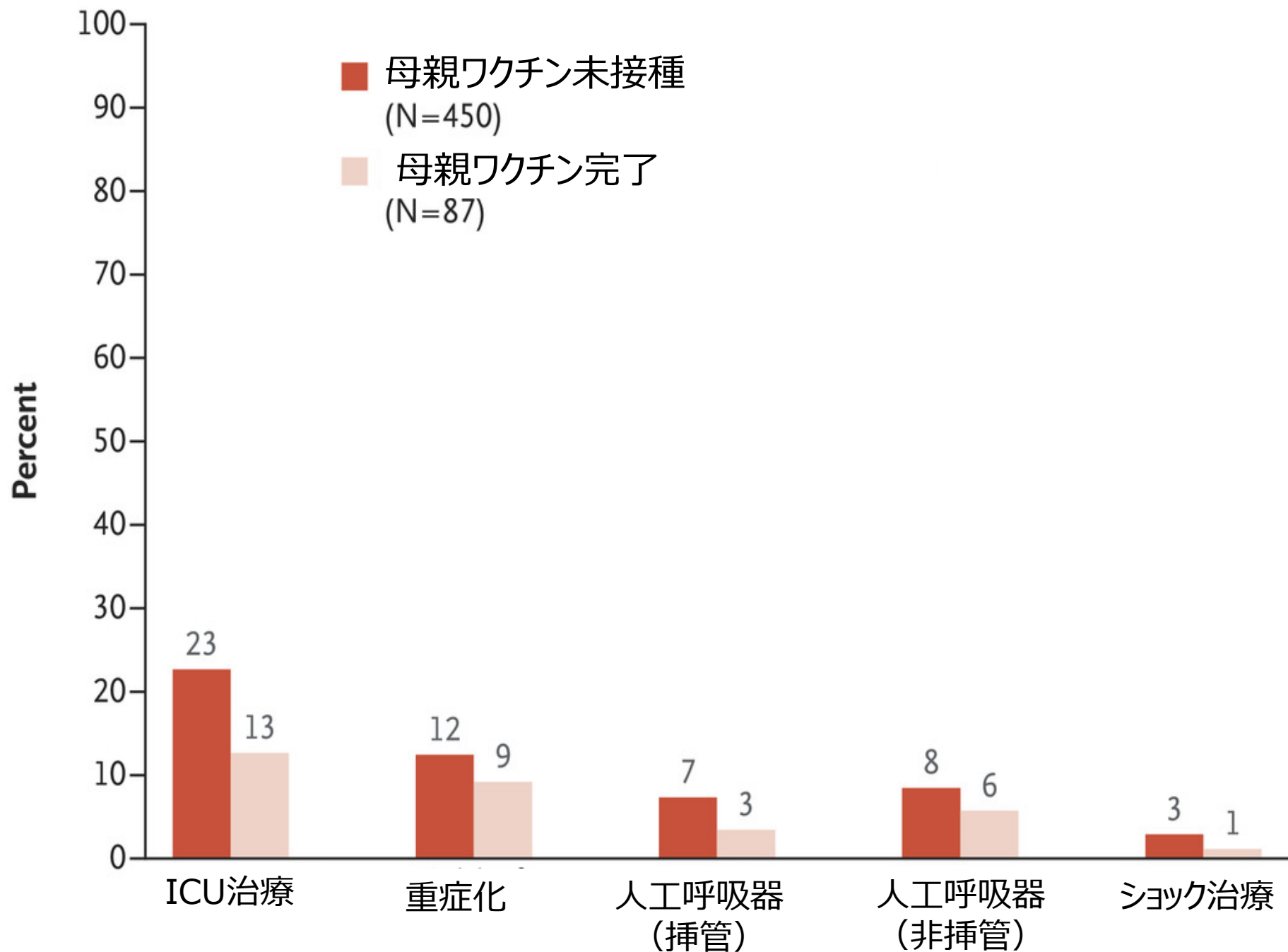
症例群の新生児の21%（113名）はNICU治療を受けた（64名[12%]が人工呼吸器治療あるいは昇圧剤投与を受けた）。

症例群から2名の死亡児が発生したが、いずれの母親も妊娠中にワクチンを受けていなかった。

妊婦のワクチン接種による新生児の新型コロナ入院リスク低下率は52%（33~65%）、デルタ株流行時で80%、オミクロン株流行時で38%、妊娠20週以後にワクチン接種をした場合69%、妊娠20週以前に接種した場合38%とそれぞれ有意に低下していた。

結論

妊娠中にmRNAワクチン2回接種を完了した場合、生後6か月未満の新生児の新型コロナ感染による入院と重症化リスクは有意に低下していた（次スライド参照）。



母親のワクチン接種状況別生後6か月未満児の新型コロナ重症化帰結